令和６年度神奈川県立鶴見支援学校　第３回学校運営協議会開催結果

＜開催日時＞　令和７年２月 28 日(金)
＜開催会場＞　鶴見支援学校
＜参 加 者＞　７名（欠席３名）
＜会議資料＞ ○開催要項 ○令和６年度　第３回学校運営協議会部会について ○学校評価（年間評価） ○パワーポイント資料
＜委員からの意見等概要＞ ［学校評価部会］ ＜教育課程・学習指導＞ 「学びの山場関連計画」の作成や、「音楽・美術・体育の身につけたい力の一覧」を活用した単元のねらいの検討により、学習のねらいや評価基準を明確にして授業実践を行った。身についた力の客観的な評価を行うことも今後大切である。 教科の身につけたい力の一覧は、概ね系統的な配列となっており、学部間のつながりを捉える上での参考となっている。系統的な教育課程に基づいた学部、学年ごとの学習というところを今後見据えていきたい。 ＜生徒指導・支援＞ 担任、相談担当、心理職との連携を図り児童・生徒の支援を行った結果、課題解決・改善にどのようにつながったのかという視点が、ここの評価の観点ではないか。担任からの相談は、児童・生徒の特性、家庭を含めた支援に及ぶものもあり、継続課題として取り組んでいる。外部機関と連携できていることは、とても大きいことであ、今後も継続していきたい。 小学部は心理職と連携しアセスメントシートの改訂を行い、中学部は新たなシートを作成した。校内やブロック内専門職の行動観察による助言を日常の指導・支援に活かした。 児童・生徒の実態に合わせた教材や支援グッズを作成し、指導・支援にあたっている。個別課題学習教材の映像をデータ化、相談室の一角に教材置き場を設定し、職員の活用を図っていく予定である。個別課題学習については、実態別段階別の教材開発も視野に入れていきたいと考えている。 ◎意見交換等 ○保護者アンケートは半分の回収率。半分の方はある程度満足しているという評価ができる一方で、もう一方は無関心になっているということもある。保護者向けのアンケートの聞き方と質問内容についてわかりやすいもの、具体を示す等あるといいのではないか。 ○質問項目が多いこと、年末年始の時期というのがある。年明けくらいに学校からお知らせして、保護者会等でもアンケートについて案内があっても良い。項目については、毎年来るものなので、こういうものなんだなと感じていた。 ○回収率の低下は、他の学校でも大体共通し、年度進行で回収率が減少してきている。保護者が学校の様子がよく分かった、あるいは学校の様子が見えたタイミングで実施する、アンケートの意味合いが保護者にどう伝わっていけるか。保護者と一緒に教育活動に取り組んでいく。 ○中達成はどういう指標で判断したかということや、なぜ中達成なのかの分析などをすると良い。中達成の項目について、目標、方策の具体化を図りながら、より達成に向けて活動を推進していくと良い。 ○「系統性」の定義について、どのくらい伝わっているかということは一つキーになるところ。どのように取り組むことが「系統性」になっていくのかということも確認をしながら積み上げていくと良い。 ○「系統性」といっても、個別性があって違う。授業の中でも混在している、どういった形で整理されているのか。それが「中達成」の一つの要因ではないか。色々な段階のお子さんがいる中での取り組み、捉え方、特別性がある良い。 ○今までの時間割で良いか、今までの時間の捉えで良いかという部分を考えながら、余裕を持つ中で時間ができればさらにいろいろな取り組みもでき、教職員の負担が少しでも軽減していく。先生も生徒もウインウインな関係でいろいろ作っていく。人間性を含めて、成長した姿がみられるよう余力を持ったシステムで考えると良い。 ○地域連携より補足。学期に１回各専門職に来ていただいている。PT からは姿勢、歩行、筋力等のアセスメントを基にした助言を、OT からは食具の使い方や姿勢、ST からは言語、摂食、コミュニケーションの部分。次年度には、具体的なケースを通じて先生たちに般化して考えていただくかというところを含め、専門職によるミニ研修会等をセットで行いながら、広く専門職の視点を先生たちが活かしていけるように工夫をして

いきたい。
○小学部では地域の専門職の協力を得てアセスメントシートの活用をしている。個別教育計画の項目を基に、専門職にアセスメントシートを作っていただいたものがある。現在の段階、次の目標設定はこの辺りと、見やすくなっている。
○放課後事業所でも個別支援計画書の作成にあたりアセスメントを作る。法律の中で、アセスメント、モニタリング、そして計画書に落とすというのが決まっている。アセスメントシートはスタッフ間の中で認識の共有がすごく重要になる。アセスメントが本当なのかというモニタリング、観察、課題決定が個別支援計画の目的。放課後デイ生活介護、家庭内と全て合わせたアセスメントでないと、学校だけでは何もできない。
○知的障害の方の最大の障害は「理解」。理解力が何らかの形で通常とは違う。時間がかかるとか、複雑なことが難しいなど、そこに主の障害の状況がある。もう少しそこにフォーカスしたアセスメントシートが必要なのでは。教室にお邪魔すると、多くの授業で説明を先に話して PP で示す。一見授業。キャッチできる生徒もいると思うが非常に情報が速い。フィードバックしようにも PP はもう消えている。子どもたちの理解力に合わせた授業のスタイルになっていない。その教室において、一見言語指示と視覚支援で基本スタイルにはなっているけれども。その結果子どもたちは飽きてきて飛び出しが起きたり、他害が起きたり、ざわざわと起きていることが多い。その辺重点を置くと良いのかと思う。
○アセスメントシートの項目は増やせば増やすだけ手間もかかる。項目が少ないとそれについての評価が先生よって違ってきたりとかする。関係する先生方とか保護者とかそういう中でコミュニケーションを取っていく中で、ご本人の真の実態が見えてくる可能性もある。
○家庭でできることが沢山あると感じた。保護者との連携。
○高等部ではアセスメントシートに取り組めていない状況だが、小学部、中学部に習って高等部でもそうあると良い。日々の連絡帳の記載もありがたく感じている。土日の様子から新たな発見をすることもある。将来のこと、本人の将来像を描くにあたっても連絡帳というツールはありがたく思っている。

＜進路指導・支援＞
進路学習会、研修会を通し、将来に向けての情報共有を実施した。教員と保護者と同じ視点で子どもたちを見ていけるようにと、あえて今年度は同じ内容で教員向け、保護者向けと行った。

＜地域等との協働＞
本校の教育活動を地域に発信していくことを引き続き行っている。校内交流は、小学部内での他学年との授業交流、分教室の生徒が本校にきて、小学部や中学部の児童・生徒との交流を行った。地域との関わりでは、高等部１年の生徒が駒岡地域ケアプラザでの掃除の実習をさせていただいた。

＜学校管理・学校運営＞
学期ごとに行う避難訓練は今後も想定を変えながら実施し、万が一のときに備えていく。「体験の質」という点では、「児童・生徒の避難所体験を含む教育活動」の位置付けの再評価、デイキャンプの実施というご意見もいただいている。そこも含め、実効性のある防災学習をどう進めていくかは、今後の検討としていく。
大規模災害時の取組については、鶴見区と連携を始めた段階。鶴見支援学校は補助的避難場所として一部の施設を地域に開放していく可能性がある。本校の役割、補助的避難所として動き等を確認するとともに、地域の施設との連携も進めていきたい。
働き方改革に向けては、今年度プロジェクトを立ち上げ、このことに特化して検討している。アイデアを基に今後も少しずつ業務改善、精選、削減を進めていく。

◎意見交換等
○「地域の学校に対して行った助言についてどのように教育活動に活かされているか確認し」とあるが、アンケートでもよいので確認し、次につなげてほしい。
○Ｘの発信がどの程度受け止められていてという評価、反響等については、閲覧数等確認してはどうか。
○大倉山記念フェスタでは、来場者からご意見をいただいている。
○Ｘの発信というのは給食のメニューで面白いものには「いいね」がつく。ありきたりの物にはつかない。インパクトがあるかどうか。関係者が見ると思われるので、ライブ感のある発信を無理のない範囲でできると保護者も今こんなことをやっているんだと反響が出ると思う。ルーティンになっていると流れてしまう。
○顔をあまり写せないと思うが、「○○先生出てたね」とグループラインで回ってくる。「いいね」はつけていないが、話題になることがある。
○４年間の目標のところである「生きる力」はどういう共通理解をされているか。「生きる力」とは「できる喜び、わかる喜び」だと思う。それが原動力。「学びの系統性」に埋め込まれているか。「わかる・できる」がどの授業にも埋め込まれているか。それは共通項でなければならない。系統性どおりにやるといっても子どもたちが追いついていかなければ苦痛感が残る。系統性には載っているが「生きる力」には否定的な取り

組みであるとなってしまう。一つコア、中核となる、まず「生きる力」の目的が「わかる喜び・できる喜び」の積み重ね。それが進路にもつながっていく。そのあたりのことが見えづらいというのが感想。
○給食の食材等を鶴見の JA から仕入れる等、鶴見産の食材を食べるといったこと。地方等では地域の野菜を食べたりしている。鶴見は結構野菜を作ったりしている。JA の販売会等すごく盛況。鶴見の食材を JA と協力して鶴見で出来上がったものを食べるのも面白いと思う。
○大曲広場ができた時には、支援学校が活動しており、後援会で土を全部取り替え、そこまで最初はやっていたので、現在使っていなのはもったいないなと思う。また大曲広場は、鶴見の大規模災害の防災拠点となっている。できた当時自衛隊まで来て相当大きい災害訓練も行った。そういう場所が近くにあるので、今年度から駒岡でも大きい防災訓練をはじめ、学校さんにも参加をしていただく。年々、前は学校で防災訓練は宿泊を兼ねた形でやっていたかと。なかなか今はできないかもしれないが、例えば全校でなくても１クラスだけでもやってみる、学校の中で一晩明かしてみる等、遊び心がある訓練があると面白いかと思う。
○昔は生徒が駒岡の街を出歩いて、教材を寄付してもらったり、色々な形で街歩きをしたりしていた。そういうのもＸ等で発信し、地域の方、協力した方々に見てもらうと嬉しい方もいるかなと思う。

［学校設置部会］
◎地域共同部会
　一つは進路学習会についての共有。たくさんの情報が入ってよかったという意見をいただき、同じ話を教員にもしてほしい、個別支援級の先生はなかなか情報が足りないので、まず先生が学ぶということを発信してほしということがあった。保護者だけでなく、生徒に聞かせる機会があっても良いのではという意見もいただいた。
　もう一つは外部の方の学校活動へのかかわりというところで特別支援学校における地域学校協働本部を模索していけると良い。地域を教材として活動できればよい、といった意見をいただいた。また、地域の方が学校に求めていることを知る機会がなかなかないので、そういう場があると良いということで地域共同活動 Co を置けると良い。また次年度の方向性として進路学習会を続けていければよいという意見を頂いた。

◎地域安全部会
　一点目は保護者への情報提供について。臨休の際にマチコミを見なかった保護者へどう発信していくかといったことや、SB の位置情報を知らせてくれると良いというのがあった。
　二点目は訓練の積み重ねの重要性。また、薬を持ち出す係を変える等、教員の役割意識を変えてみると良いのではという意見を伺った。
　三点目は防災マニュアルを活用できると良いというご意見、また SB 乗車時の災害を想定したマニュアルがあると良いとのご意見があった。
　四点目は分教室では防災対策だけではなく防犯対策も課題になっているということ。不審者が入るだけではなく、自力通学途中で声をかけられたり、アンケートへの回答を求められたりすることが考えられる。困った人を助けることは教えたいが、それを教えたことによって事件に巻き込まれてしまうこともある。基本は知らない人に声をかけられても対応しないという形での指導をしている。もう一つは LINE でのトラブルが多々出てくるので、そちらの方の対策をしている。LINE については使い方マニュアル、SNS の使い方マニュアルという形で生徒たちに示し、一般例ではなく、具体例、卒業生がこんな目にあったので皆さん気を付けてくださいねという指導を行っている。これは年間計画に、生活単元の中の道徳というような形で入っている。

［まとめ］
○昭和の時代の働き方で、我々がやってきたこと、我々がやりすぎたことが今の時代に合わなくなってきてオーバーフロウ状態になっている。先生方は非常にまじめで、内部で変えることは難しい。こういったメンバーの中で、学校の働き方の考えについて来年度部会を立てて、先生方が言えない部分を検討して発信していくことも面白いのでは。県から降りてくることがすごく多い。県から認知された部会の中で発信していくことできると思うので検討していけると良い。
○横浜市は時間割の見直しをしている。駒小午前中 4 時間まで、５時間まで、30 分授業だったり 45 分授業だったり時間割を柔軟にとって、学部毎（学年毎）に必要な時間が全部同じとは限らないのでそこで調整している。先生たちにも余裕が生まれているという話を聞いている。

◎会長挨拶
◎校長挨拶